

県内各地で遺留品が返還

日章旗や写真が遺族に返還される

「戦没者遺留品の返還に伴う調査一式」の委託事業を厚生労働省から受託している日本遺族会から調査依頼のあった日章旗や写真の遺留品が、県内の地区遺族会の調査協力により遺族が判明し、返還されました。

大西賢一郎さんの日章旗は、コロラド州在住の米国人の方から、日本兵の遺留品返還活動をしている米国の民間団体「OBONソーサエティ」に対し、「ご遺族を探してほしい」と託され、同団体から連絡を受けた日本遺族会の調査で高知県出身者であるということが判明し、県遺族会へ調査依頼がありました。

その後、安芸市遺族会のご協力でご遺族が判明し、安芸市総合社会福祉センターで返還式が行われました。



また、別で日本遺族会から調査依頼のあった4名の写真は、海軍の教班長であった方のご遺族が所有していたもので、そのご遺族が亡くなり、佐賀県遺族会へ引き渡された後、日本遺族会へと託されました。

そのご遺族が所有していた遺留品の写真は全部で56名分あり、教班長から指導を受けた兵士が、昭和18年7月2日に撮影した記念写真の裏に自分の住所と戦地へ赴く決意、教班長へのメッセージ等を書いたものです。

そのうちの4名が高知県出身者であり、その4名の写真について、日本遺族会から県遺族会に調査依頼がありました。



五藤忠雄さんの写真は安芸市遺族会に、岩上敏男さんの写真は高知市鴨部地区遺族会に、坂井忠義さんの写真は土佐清水市下川

口地区遺族会に、濱岡正一さんの写真は土佐清水市清水地区遺族会にご協力をいただき、地区長さんをはじめとする皆様のお世話により遺族が判明し、返還されました。



※令和3年1月

高知県遺族会報掲載